

清瀬市発表

清瀬市のがん検診事業について

発表者 清瀬市生涯健幸部健康推進課長 石川 智裕

1 令和3年度（2021年度）清瀬市がん検診事業の実績等

№	検 診 名	検診事業の内容				検診の受診者数及び受診結果（単位 人）							
		対 象 者	主な検査 内容	募集人員 (予算)	自己負担額	受診者数	受診率	1次検査結果		精密検査 受診者数	精密検査結果		
								精検 不要	要精検		異常なし	有所見	がん (疑い含) ※再掲
1	子宮がん検診	20歳以上の女性	視診、内診、細胞診	頸部のみ 1,090人	1,000円	頸部 1,225	11.5%	1,193	32	23	9	14	8
				頸部+体部 70人		体部 56		56	0	0	0	0	0
2	乳がん検診	40歳以上の女性	マンモグラフィ	1,300人	2,000円	1,432	15.7%	1,355	77	69	50	19	8
3	胃がん検診	40歳以上の方	バリウム検査	1,025人	1,000円	1,087	7.0%	994	93	83	35	48	2
4	肺がん検診	40歳以上の方	レントゲン直接撮影 リスク者は喀痰細胞診	1,250人	レントゲン500円 レントゲン + 喀痰細胞診 1,000円	892	3.4%	868	24	19	11	8	2
5	大腸がん検診	40歳以上の方	免疫学的便潜血検査	1,830人	500円	1,835	7.0%	1,742	93	79	27	52	2
合 計		—	—	—	—	6,527	—	6,208	319	273	132	141	22

2 受診率向上の取り組み

(1) 乳がん検診クーポン事業

対象者に無料クーポン券を送付し、がんに関する正しい知識と理解を深め、がん検診の受診を推進しています。

対象者は、前年度中に40歳になった女性の方

令和3年度は、437人にお送りして、114人の方が受診しました。（受診率26.1%）

(2) 検診メニューのセット化

利便性を向上して受診率の向上を図るため、胃・大腸・肺がんのセット検診を実施しました。

検診内容はそれぞれの既存検診と同内容で実施 定員：440人

令和元年度定員100人で開始したが、反響は大きく募集初日の午前中に定員が埋まりました。

このため、翌年度の令和2年度は定員260人に増やして実施したが、442人の申込みがありました。

令和3年度及び今年度は、定員440人で実施しています。

(3) 勧奨（コール）及び再勧奨（リコール）を実施

がん検診ごとにピンポイントの年齢層にはがきや圧着リーフレットを送り、受診の勧奨（コール）をしています。

さらに勧奨後3か月～5か月を目安に、勧奨した方全員（受診申込者を除く。）に受診の再勧奨（リコール）をしています。

特に20歳から対象の子宮がん検診については、23歳から31歳までの隔年齢の方にはがきで勧奨をしています。

3 評価と課題

➤ 令和3年度のがん検診事業について

令和2年度に拡大した新型コロナウイルス感染症により、全国の自治体で実施するがん検診の受診率は、概ね30%程度低下しましたが、清瀬市では検診会場の感染対策を行った上で、当初の予定通りがん検診を実施しました。

受診者数の状況ですが、五つのがん検診の全てが対前年度を上回り、過去5年間においても最も多い受診者数となりました。要因は、先にも述べた、検診のセット化、定員拡充、受診勧奨及び肺がん検診における大腸がんのオプション検診の実施などがあげられます。

もう一つは、市民のみなさまの健康管理に対する意識の高さがあげられ、必要な検診はコロナ禍であっても受診する行動が要因と考えられます。

課題のひとつは、キャンセルされる方が多いことです。とりわけ子宮がん検診においては、申込者数1,877人に対し実際の受診者が1,225人となっており、約35%のキャンセル率となっており、今後対応策を検討していきたいと考えています。

➤ 検診の精度管理

東京都がん検診精度管理評価事業の指針により、1次検診の実施のみで終わるのではなく、複数年にわたり検診プロセスを評価して、より精度の高い検診を実施するために評価・チェックを行っています。

➤ 成果指標を目指して

令和3年度においても市のがん検診を6,500人余りの方が受診されました。

市は受診率向上を目指し、1人でも多くの市民のみなさまにがん検診を受診していただくことをいわば目標としています。

しかし、受診率はあくまで 活動指標（アウトプット）です。

国は、がんによる死亡者を減らすことを方針としており、成果指標（アウトカム）のひとつです。

更に市が目指す最終の成果指標は、「市民のみなさまの健康寿命が伸びた。」「医療費が削減された。」などです。

今後も受診率だけに着目せず、成果指標を見据えながらこの事業に取り組んでまいります。